

日本における看護倫理の動向  
—医学中央雑誌 web 版によるキーワード検索をとおして—

橋本 和子\*, 平瀬 節子\*\*, 野村 晴香\*\*, 高橋永子\*\*, 石橋照子\*\*\*

\*福山平成大学看護学部 〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成正戸 117-1

\*\*高知大学医学部看護学科 〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

\*\*\*島根県立看護短期大学 〒693-8550 島根県出雲市西林木町 151

Current Status of Nursing Ethics in Japan Based on a Search of Online Medical  
Journal Database

Kazuko HASHIMOTO \*, Setsuko HIRASE\*\*, Haruka NOMURA\*\*,  
Eiko TAKAHASHI\*\*, and Teruko ISHIBASHI \*\*\*

\*Dept. Nursing, Fukuyama Heisei Uni. 117-1 Kamiwanari-masato, Miyuki, Fukuyama City, Hiroshima  
(720-0001)Japan

\*\* Dept. Nursing Kochi Uni. Kohasu, Oko, Nankoku City, Kochi( 783-8505)Japan

\*\*\*Shimane Nursing College.151Nishihayasigi,Izumo City, Simane(693-8550)Japan

要約

本研究は、日本における看護倫理の動向を知る目的で、医学中央雑誌 web 版によるキーワード検索に基づき、内容を分析した。文献数の年次推移では、全体の 70% を占める文献が 2003 年以降に集中していた。論文の種類では、「解説」が最も多く、次に「原著論文」「会議録」「一般」となり、中でも「原著論文」は 2004 年以降増加の傾向を示していた。また、その内容は「職業倫理」「患者の権利」「倫理教育」「看護研究の倫理」「倫理の概念」に分類された。

Abstract

The purpose of this study was to understand the current status of nursing ethics in Japan by searching keywords in an online database of Japanese medical journals produced by the Japana Centra Revuo Medicina. The majority (70%) of the publications retrieved were released in 2003 and thereafter, and most of these articles were reviews, followed by original articles, conference minutes, and other general publications. Published original articles increased in number from 2004.

The themes of these articles included professional ethics and ethics education, the number of which significantly increased, and other themes such as patient's rights, nursing research ethics, and the concept of ethics.

キーワード：看護倫理，倫理問題，文献検索

Keywords: nursing ethics, ethics issue, literature research

## 緒言

医療技術の進歩や社会構造の変化は、医療に対するニーズを多様化させている。その中において、社会に暮らす人々の人権意識の高まりとともに、看護においても「看護倫理」という用語はごく当たり前になりつつある。

看護基礎教育では「看護倫理」という用語は1947年～1989年の改正までの間、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の中で専門科目として制定されていたが、その後他の授業科目に内包される形で姿を消した。1989年に入り社会においてインフォームドコンセント、脳死問題、患者の権利等が具体的問題として生じ始めた頃から、倫理教育の必要性が強調され2007年「看護基礎教育に関する検討会報告書」の看護基礎教育の現状と課題の中で、職業に必要な倫理観の育成の必要性が述べられている<sup>1-3)</sup>。

「看護倫理」は、倫理の考え方を看護の分野に応用した応用倫理の1つであり、バイオメディカルな倫理の下位分類と捉えられている<sup>4) 5)</sup>。そして、その歴史は1893年ナイチンゲールの「ナイチンゲール誓詞」が看護師の最初の倫理規範とされてから、「徳の倫理」が主流の時代、「徳の倫理」から「原則の倫理」に移行した時代を経て、現在は「徳の倫理」・「原則の倫理」ともに重要とされている<sup>6) 7)</sup>。

このような歴史的推移とともに、わが国の「看護倫理」はどのような動向にあるかを知り、今後の参考資料とする目的で文献の内容を分析した。

## I. 研究方法

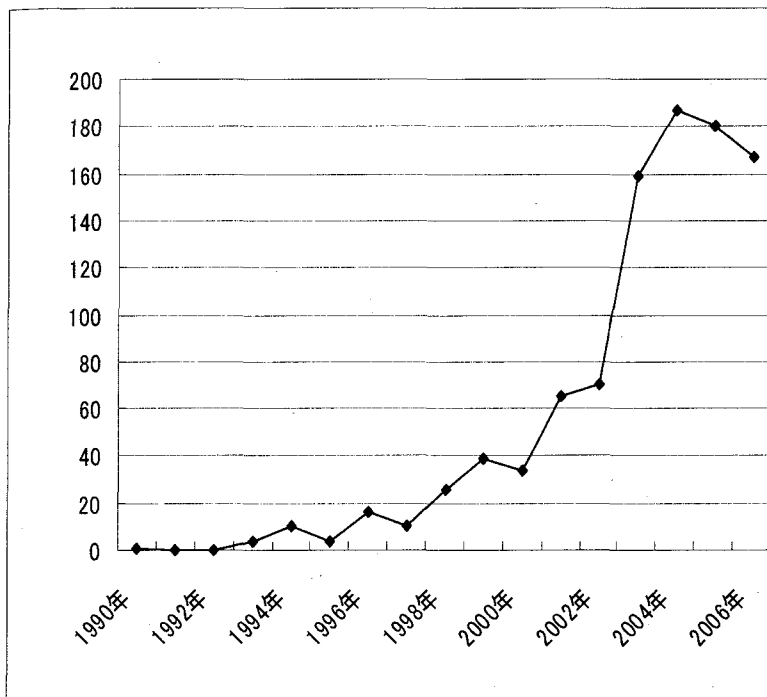
研究対象は、医学中央雑誌 web 版(2007年2月)を使用し、1990年から2006年にかけて、キーワード「看護倫理」によって検索された文献を対象とした。抽出された文献について、研究タイトル、雑誌名、論文種類などを要約するシートを作成した。調査内容は、看護倫理に関する論文数の年次文献数、文献種類別年次文献数、及び文献内容の分類について分析した。

## II. 研究結果

### 1. 「看護倫理」の年次文献数

文献数の年次推移は、表1に示すように1990年～1997年までは1～16件、1998年～2002年までは25～70件、2003年～2006年までは159～187件であった。図1に示すとおり、全文献数988件のうち、全体の70%を占める693件の文献が2003年以降に集中している。このことから、2003年以降「看護倫理」に関する文献が急増しているところが特徴として認められた。

表1. 「看護倫理」年次文献数



年度	文献数
1990年	1
1991年	0
1992年	0
1993年	4
1994年	10
1995年	4
1996年	16
1997年	10
1998年	26
1999年	39
2000年	34
2001年	65
2002年	70
2003年	159
2004年	187
2005年	180
2006年	167
合計	972

図1. 「看護倫理」年次文献数

2. 文献種類別年次文献数

文献の種類は、医学中央雑誌の分類に則して行った。解説 489 件(49%)、会議録 234 件(24%)、原著 187 件(19%)、一般 70 件(7%)、総説 6 件(0.6%)、図説 1 件(0.1%)、講義 1 件(0.1%)であった。全体の中では、解説が最も多く、次に原著論文、会議録、一般となっている。中でも原著論文は 2000 年 9 件が 2003 年 20 件、2006 年 58 件と著明な増加の傾向を示していた。

表2. 論文の種類別年次文献数

年度	原著	解説	総説	会議録	図説	講義	一般	合計
1990年	1	0	0	0	0	0	0	1
1991年	0	0	0	0	0	0	0	0
1992年	2	0	0	0	0	0	0	2
1993年	4	0	0	2	0	0	0	6
1994年	8	0	0	2	0	0	0	10
1995年	3	0	0	1	0	0	0	4
1996年	2	7	0	3	0	0	4	16
1997年	0	0	1	1	0	0	8	10
1998年	1	6	1	5	0	0	12	25
1999年	4	23	0	5	0	0	7	39
2000年	9	20	1	8	0	0	9	47
2001年	12	41	0	6	0	0	6	65
2002年	4	44	1	20	0	0	1	70
2003年	20	77	0	54	1	0	7	159
2004年	20	89	0	69	0	1	8	187
2005年	39	107	1	26	0	0	7	180
2006年	58	75	1	32	0	0	1	167
合計	187	489	6	234	1	1	70	988

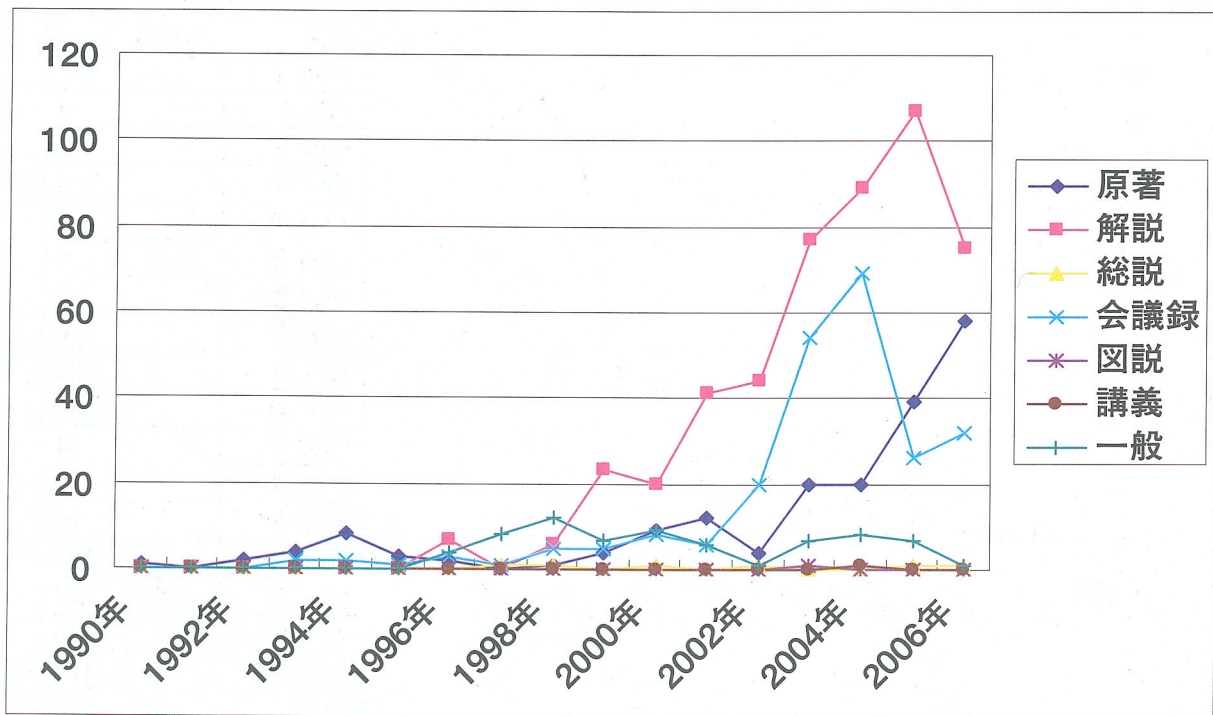


図2. 文献の種類別文献数の年次推移

### 3. 文献内容の分類

文献の内容については、文献数の増加が著明に認められた2001年～2006年に焦点をあて、検索された文献に対し、テーマ及びアブストラクトを参考に検討した。その結果、「職業倫理」「倫理教育」「患者の権利」「看護研究の倫理」「倫理の概念」「その他」に分類された。その内訳は表3、図3に示すとおり「職業倫理」は、看護実践に伴う看護師の態度、姿勢、判断、行為に関する内容で366件(44%)「倫理教育」は看護教育の中で倫理を扱った内容で231件(28%)、「患者の権利」は生命倫理、意思決定など患者の権利に関する内容で89件(11%)、「看護研究の倫理」は看護研究に関する倫理を扱う内容で80件(10%)、「倫理の概念」は、看護倫理の考え方に関する内容で36件(4%)であった。また、上記に該当しない内容はその他とし26件(6%)であった。

表3. 文献内容の分類(2001年～2006年)

年度	職業倫理	倫理教育	患者の権利	看護研究の倫理	看護倫理の概念	その他	合計
2001年	33	7	5	15	2	3	65
2002年	30	9	9	12	6	4	70
2003年	74	44	21	11	6	3	159
2004年	83	54	18	18	9	5	187
2005年	59	74	22	16	4	5	180
2006年	87	43	14	8	9	6	167
合計	366	231	89	80	36	26	828

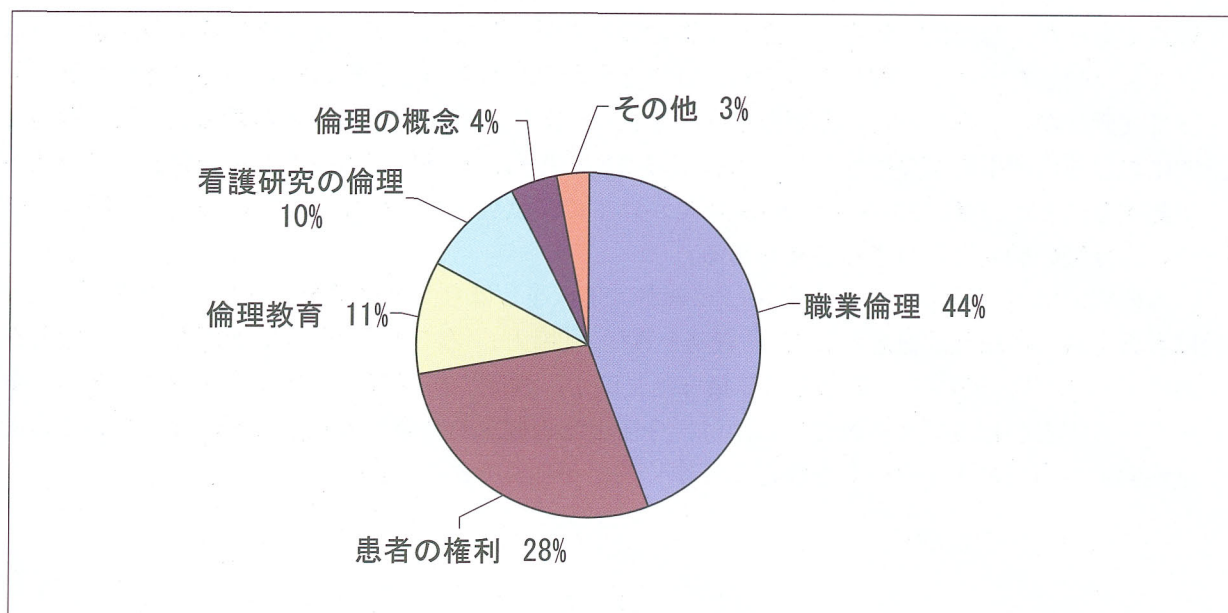


図 3. 文献内容の分類

### Ⅲ. 考察

医学中央雑誌 web 版によるキーワード「看護倫理」で検索された文献（1990 年～2006 年）は合計 988 件であった。文献数の年次推移では、全体の 70% を占める文献が 2003 年以降に集中しており、1998 年以降、増加傾向にあった文献数は 2003 年を境に顕著な増加を見せている。

看護師の職業上の規律である倫理要領も時代の流れを受けながら変化している。米国看護師協会（ANA, 1911 年設立）の倫理要領は 1950 年に世界で最初に倫理要領を定め、国際看護師協会（ICN, 1899 年設立）は 1953 年に最初の倫理要領を発表した。その後数回の改定を経て 21 世紀に至っている。日本看護協会（JNA）では、1988 年に「看護婦の倫理規定」を発表し、医療と社会の変化、ICN の倫理要領改定を受け、2003 年に「看護者の倫理要領」が示されている<sup>8)</sup>。2003 年以降の顕著な文献の増加は、新たに示された倫理要領の影響により、看護師の「看護倫理」への関心の高まりをうかがうことができる。

文献の種類では、解説が最も多く、田口<sup>9)</sup>（1990 年～2000 年）らが行った研究と同様、看護師の看護倫理への関心がさらに高まっていることの裏づけであると言える。さらに田口らは、研究の種類を分類し、課題の発展段階の最も初期に位置する「因子探索型」が最も多いと述べている。本研究では、同様の分析を行っていないためその後の変化について言及することは困難であるが、2003 年以降の急激な文献数の増加のなかでも、原著論文が 2000 年には 9 件であったのが 2003 年以降 20 件～58 件と年々増加していることから、「看護倫理」に関する課題の発展に対する期待が寄せられる。

また、表 3 による文献内容の分類の年次推移では、年々増加傾向にあるなかで、倫理教育は 2005 年 74 件、2006 年 43 件となっており、看護研究の倫理は、2005 年 16 件、2006 年 8 件というように減少している。本研究の文献の種類で示したとおり、文献の件数の約 50% を占めていたのは



解説であった。解説は、特定の分野の主題について解説したものであり、その時々を対象者のニーズを反映したテーマが取り上げられ、特集などが組まれている。そのため、その特集の数によって文献数が左右されるという事態も考えられる。また、2004年には日本看護協会から、看護研究における倫理指針が発行されている。このことから、看護研究の倫理は今後発展の可能性が予測することができ、2005年～2006年にかけての文献数の減少が今後も続いてゆくとは考えにくい。今後の動向に注目する必要がある。

本研究では、「看護倫理」というキーワードに焦点をしばり文献検索を行った。サラ T. フライは看護実践上の倫理的概念として、「責務と責任」「協力」「ケアリング」「アドボカシー」などをあげている<sup>10)</sup>。これらの概念を取り扱った文献が、今回の研究で行った「看護倫理」というキーワードでどの程度捉えられているかは、今後上記の概念も考慮に入れ、看護倫理についての文献検索についてのキーワードを決定してゆくことが必要であろう。

## 結 語

今回の研究では、医学中央雑誌 web 版によるキーワード検索に基づき、内容を分析した結果、全体の70%を占める文献が2003年以降に集中しており、最も多い「解説」について「原著論文」は2004年以降増加の傾向を示していた。また、その内容は「職業倫理」「患者の権利」「倫理教育」「看護研究の倫理」「倫理の概念」に分類され、日本における看護倫理の動向の概観が明らかとなった。今後は、「看護倫理」に関する文献の内容について焦点化し、さらに分析を進めてゆくことを課題としたい。

## 引用・参考文献

- 1) 「看護基礎教育の充実に関する検討会」報告書(平成19年4月16日)(2007), 看護教育 Vol.48 No.7 ; 563-564.
- 2) 高橋みや子 (2005), 看護学教育における倫理教育の変遷, 日本看護学教育学会誌 Vol.14 No.3 ; 39-45.
- 3) 小島操子(1998), 看護倫理: 看護教員としてこう考える, Quality Nursing Vol.4 No.1 ; 4-8.
- 4) 大庭 健 (2006), 現代倫理学辞典, 弘文堂, 東京 ; 94.
- 5) Sara T. Fry (1988), 看護倫理の基本的概念と哲学的背景, 看護研究 Vol. 21 No.1 ; 26.
- 6) 石井トク (2002), 看護の倫理学, 第5刷, 丸善株式会社, 東京 ; 11-13.
- 7) 小西恵美子 (2007), 看護倫理, 南江堂, 東京 ; 16-22.
- 8) 日本看護協会(2003), 平成15年版 看護白書, 日本看護協会出版会, 第2刷, 東京 ; 217-227.
- 9) 田口玲子 宮坂道夫 藤野郁夫 (2000), わが国における<看護倫理>の動向, 新潟大学医学部保健学科紀要 Vol.7 No.2 ; 249-254.
- 10) サラ T. フライ (訳) 片田範子 山本あい子 (2002), 看護実践の倫理, 日本看護協会出版会, 第4刷, 東京 ; 39-45.

(受理日平成20年1月10日)